

- ☆支援方針
1. 集団療育プログラム(なかよしタイム)を通して、①コミュニケーション能力の向上、②ルールの理解と遵守、③自信と挑戦する意欲の向上、④情緒の安定と豊かさの育成、⑤日常生活のスキル向上を育みます。
  2. 個別療育プログラム(にこにこタイム)を通して、①個々の発達に応じた支援、②自己表現力の向上、③成功体験を積み重ねることで自信を育む、④苦手分野の克服と得意分野の伸長、⑤情緒の安定と自己調整力の向上を育みます。
  3. 音楽や運動、絵本の読み聞かせなどの活動を通して、感受性や表現力、創造力を豊かに育みます。
  4. 認知能力と非認知能力を育みます。(「認知能力」とは、点数などで数値化できる知的能力、「非認知能力」とは、数値化することが難しい内面的なスキルを指し、「人とうまく関わる力」「感情のコントロール力」「くじけない心」等です。)
  5. 発達ピラミッドを踏まえた療育を行います。(基礎感覚を伸ばす)(感覚の土台から整える)

- 【個別療育プログラム】
- ・認知発達の活動
  - ・感覚統合療法
  - ・言語療法(ことばの練習)
  - ・学習支援
  - ・SST
  - ・創作活動
- 【集団療育プログラム】
- ・運動遊び
  - ・リトミック
  - ・感触遊び
  - ・手先遊び
  - ・制作遊び
  - ・言葉遊び
  - ・数字遊び
  - ・課外活動
  - ・SST
  - ・クッキング
  - ・表現遊び
  - ・実験遊び
  - ・ルール遊び
  - ・食育
  - ・避難訓練

- 【本人支援】
- <本人支援の5領域>
- A「健康・生活」  
心身の健康や生活に関する領域
  - B「運動・感覚」  
運動や感覚に関する領域
  - C「認知・行動」  
認知と行動に関する領域
  - D「言語・コミュニケーション」  
言語・コミュニケーションの獲得に関する領域
  - E「人間関係・社会性」  
人との関わりに関する領域

A「健康・生活」

- 健康状態
- 来所時には体温計測を行い、お子さまの健康状態、体調の変化がないかを丁寧に確認し、安心して活動に取り組めるよう配慮します。
  - 教室でのルールを一つ一つ丁寧に伝え、スモールステップでできることを増やし身辺自立を促していきます。できるようになったことを具体的に褒めて自信に繋げていけるように支援します。
  - 挨拶や返事をする際には相手の目を見て話せるよう、適宜声掛けを行い、コミュニケーションの基本を身につけられるよう支援します。
  - 自分の荷物を整理し、大切に扱えるよう丁寧に声掛けを行い、整理整頓のコツを伝えながら少しずつ実践できるよう支援します。
  - 身の回りの片付けや準備を自ら進んで行えるよう働きかけ、主体性を育みます。
  - みんなで使う物を大切に扱えるよう、日常の活動の中で意識づけを行い、丁寧な扱い方を身につけられるよう支援します。
  - 集中して学習に取り組める環境を整え、落ち着いて学習する習慣が身につくよう支援します。



- B「運動・感覚」
- 椅子に座って話を聞き、落ち着いて活動に参加できるよう、お子さま一人ひとりに合った支援を行います。
  - 運動や身体表現を通じて、体を動かす楽しさを味わいながら、体幹を強化し、正しい姿勢を保つことの重要性を伝え、意欲を高める。自ら正しい姿勢を意識し、体幹を安定させながら、自分の体や動きをコントロールする力を養えるよう、適切な支援を行います。
  - 活動の中で、全身を使う運動(粗大運動)や、手や指を細かく使う動作(巧緻動作)に楽しく取り組めるよう配慮します。お子さまの頑張る姿を称賛し自信に繋がるように支援します。
  - バランスストーンやトランポリン、バランスボールを活用し、バランス感覚や体幹を整えます。
  - 粘土やスライム、指で絵を描く遊びなど、さまざまな感触を楽しむ遊びを通して、触覚を刺激する支援を行います。
  - 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を活用し、視覚的に理解する力を伸ばす支援を行います。
  - 楽器や音を使った活動を通じて、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする力を育み、楽しく「聴くこと」や「聴いて理解する力」を養います。

- C「認知・行動」
- 職員の話をも最後まで落ち着いて聞けるよう、話し方を工夫し、視覚的支援を活用しながらサポートします。
  - 「聞く聴くドリル」「言葉の記憶」「絵本の読み聞かせ」などの活動を通して、聞く力を養います。
  - 個別療育の際には、自分なりの目標を持ち、それに取り組むことで達成感を積み重ねられるよう支援します。(例:時間内に課題を終わらせる、丁寧に取り組む など)
  - 新しく習うことに対しては、基礎をしっかり身につけ、理解力を高められるよう丁寧に支援します。
  - 好きなことや得意なことに取り組む中で自信をつけ、自己効力感を高めることで、苦手なことにも挑戦しようとする気持ちを育みます。また、お子さまの努力を具体的に認めることで、学習への意欲が持てるよう丁寧に支援します。
  - タイムタイマーやスケジュール表を活用し、次の行動を視覚的に示すことで見通しを持たせ、期待を持って切り替えができるよう支援します。切り替えが難しい場合は、お子さまの気持ちを受け止めながら代替行動を提案したり、必要に応じて毅然とした態度で正しい行動を伝えたりします。
  - 学習時には教科書を準備し、分からない問題を自分で調べられるよう支援します。
  - 自主的に筆記用具を準備し、学習に取り組む習慣を身につけられるよう支援します。

- D「言語・コミュニケーション」
- お子さまの様子を把握しながら、言語聴覚士による専門的な支援を行います。
  - 職員を介して他のお子さまとの関わりをもち、一緒に活動する楽しさを感じられるように支援します。
  - 活動や遊びの中で、自分の気持ちを言葉で伝えたり、一緒に考えたりする経験を積むことで、落ち着いて気持ちを伝えられるよう支援を行います。
  - 身近な物の名称、日常生活における言語の理解を上げ語彙力や文章力の向上に繋げていけるように支援をします。また、要求や気持ちのやり取りをする力を育ていけるように、職員が手本になり気持ちを代弁していく等、その場に応じた支援を行います。
  - 絵本の読み聞かせや言葉遊びなどを通じて、言葉の表現力を育み、職員や他のお子さまとの言葉のやり取りを楽しむ経験を積み重ね、適切な言葉遣いができるよう支援します。
  - 不適切な発言があった際は、お子さまの気持ちを受け止めつつ、状況を振り返り、「自分が言われたらどう感じるか」などを一緒に考え、適切な言葉を使うよう伝えます。また、不適切な言葉を使ってしまった相手に対して謝罪ができるよう促します。
  - 活動の中で「ふわふわ言葉(優しい言葉)・ちくちく言葉(傷つける言葉)」について一緒に考えます。日常生活の中で職員が丁寧な言葉を使って伝えることで、お子さまが自然と正しい言葉遣いを身につけられるよう支援します。

- E「人間関係・社会性」
- 好きな遊びを通して職員との信頼関係を築き、安心して過ごせるよう支援します。
  - 集団療育などの場面で気持ちを伝える機会を作り、職員が手本となり、時には気持ちを代弁しながら、コミュニケーション力を育みます。
  - 職員を介して他のお子さまと関わる機会を作り、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようサポートします。
  - 遊びや活動の中で、「貸して」「一緒に遊ぼう」などの言葉のやり取りができるよう場面を設定し、他のお子さまと関わりながら自分の気持ちを伝える機会を作ります。
  - 物事を考える力や判断する力を育てるために、良いことと悪いことを考える場面を作ります。その中で、どう行動すればよいかを考え、自分の言葉で伝え、実践できるように支援します。
  - 集団活動を通して、ルールを守ること、他のお子さまと協力することの重要性、一緒に活動する楽しさを学べるよう、実際の経験を重ねながら支援を行います。
  - 自己抑制の力を身につけ、周囲の状況に合わせて適切に行動できる力を養います。

- 【家庭支援】
- 個別 & 集団療育で行った活動内容を保護者に伝え、定期的に面談の機会を設けて情報を共有します。
  - 個別療育などの観察の機会を作り、支援のポイントや関わり方について保護者へフィードバックを行います。

- 【移行支援】
- 必要に応じて学校での様子を伺い、本児との関わりについて情報を共有します。
  - 送迎時や電話などを通じて、事業所での様子をお伝えし、情報交換を行います。

- 【地域支援・連携】
- 情報収集や役割分担について協議するため、定期的に連携会議を開催します。
  - 各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や困りごとへの対応方法について提案し、支援のポイントを共有します。

- <体験・経験(行事等)>
- 季節の行事(夏祭り・ハロウィン・クリスマス会・節分・ひな祭り等)
  - 課外活動(近隣施設や公園への外出活動)
  - クッキング ○食育
- <職員の質の向上>
- 職員研修(療育に関わる様々な研修)
  - 虐待防止研修 ○身体拘束適正化研修
  - 感染症対策研修